

学校関係者評価報告書

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校
学校番号 35

評価実施日		令和8年2月19日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	木下 恵介	学校評議員	
	田中 元久	学校評議員	
	菊池 誠	学校評議員	
	河野 文俊	学校評議員	
	小山 優子	学校評議員	
	菊池 こず恵	前PTA会長	
	柏木 和哉	PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 学校経営 ・地域と連携し、よく地域に貢献してくれている。是非、これからも地域に開かれた素晴らしい学校づくりを継続してほしい。 ・多くの部が県大会、四国大会、全国大会で活躍しており、地域の誉れである。 ・生徒達が落ち着いた学校生活をしており、普段から細やかな指導が行き届いていることがよく分かる。 (2) 学習指導 ・基礎学力が定着するように、これからも尽力してほしい。 ・授業参観をした際に、丁寧に分かりやすく教えられていると感じた。 (3) 工業教育 ・地域企業と連携しながらの充実した教育体制が素晴らしい。 ・工業科の特色を生かした「ものづくり」を熱心に取り組む姿勢が大変に良い。 ・職場見学や企業とのマッチング等を実施して、職業観や就労観の育成に十分に努めている。 ・3年生の課題研究の成果発表会や2年生のインターシップの体験発表等が、非常に充実した活動であったことがよく伝わってきた。 ・各種資格・検定等の取得のために、細やかな指導がなされ、良い結果を出している。更に頑張してほしい。 (4) 特別活動 ・高校生は、地域にとって大事な力であるから、ボランティア活動や地域交流に積極的に参加し、地域の活性化に繋げてほしい。 ・体育祭や工業祭での生徒たちの活躍する様子や楽しそうな表情から、充実した学校生活を送っていることがよく分かった。 ・訪問してもらった子どもたちが大変に喜んでいたので、近隣校と連携してボランティア活動を継続してほしい。	1 今年度の最終評価について (1) 学校経営 ・各種出前授業やものづくり教室の実践等を継続し、地域との連携を常に意識した取組を今後も行っていきたい。 ・部活動等での活躍により、地元を元気づけ地域の活性化につながるように最善を尽くしたい。 ・学校、保護者、地域の連携をもとに、意欲を持って心豊かに生きる職業人を育成していきたい。 (2) 学習指導 ・努力しなければならないという意識を生徒に持たせる学習指導を心掛けていきたい。 ・一人一人の理解度を把握するための課題や確認テスト、個別指導を実施したい。 (3) 工業教育 ・今後も、ものづくりや資格取得に興味を持たせることができるように取り組んでいきたい。 ・今年度の行事や大会では素晴らしい成果を残すことができた。部員数の減少により、これまで参加してきた行事への参加が困難になることが懸念されるが、創意工夫を凝らし、活動の継続と活性化に努めたい。 ・部活動との両立において補習時間の確保が難しい一面があるが、資格・検定の取得に向けて、家庭学習も含めた努力の場づくりをしていきたい。 (4) 特別活動 ・更にボランティア活動に積極的に参加する体制づくりを行っていきたい。 ・生徒会を中心に、生徒達が主体的に活動する取組となるように計画的に進めていきたい。 ・現八幡浜高校、川之石高校、新校八幡浜高校と連携して実施する行事が増えたり、合同で行う部活動もあるので、生徒が積極的に活動できる環境整備を行いたい。

(5) 生徒指導 ・市内のどこで見かけても、身だしなみもきちんと整っている。そして、挨拶もよくできており、いつも大変に素晴らしいと思っている。 ・来校した時の生徒の様子から、丁寧な指導が日頃からしっかりとなされていることがよく分かる。 (6) 人権教育 ・人権教育は非常に大切であるから、身近な問題に結び付けながら、一人ひとりの人権意識を高めるための指導を継続してほしい。 ・いじめが全国で起こっている現状を踏まえて、いじめ対策の充実を図ってほしい。 (7) 進路指導 ・就職においても進学においても、これからの社会を担う生徒たちの希望を叶える進路実現ができており、素晴らしい。 ・離職率が全国平均と比べるとかなり低いので、良い指導がなされているのだと思う。 (8) 業務改善 ・更に学校全体で勤務時間を守りつつ、適切な教育活動をしてほしい。 ・年次有給休暇を取得した教職員数が増加しており、良い傾向である。 2 グラデュエーション・ポリシーについて ・各目標の達成に向けて努力し、成果が出ている。 3 説明・公表について ・適切な説明と公表がなされている。 4 学校運営全般について ・体育祭、工業祭、バラ展などでの生徒の活発な様子や、各部活動における県大会、四国大会、全国大会等での活躍から良い教育成果を残していることが分かる。 ・将来を見据えて検定・資格の取得させるために、更に工業の専門科目の学びを充実させてほしい。 ・一人一人の生徒に目を向けた教育がなされている。	(5) 生徒指導 ・校門指導において、専門委員会の活動と連携しながら、挨拶は他者とのコミュニケーションを円滑にするための接点として重要であることを浸透させていきたい。 ・身だしなみを含めた基本的な生活習慣が身に付くように、保護者と連携を取りながら今後も指導していきたい。 (6) 人権教育 ・日々の人権啓発の充実と人権講演会、人権集会を通して差別解消を目指して、人権意識を高められるように、更に工夫していきたい。 ・いじめの未然防止となる指導を行うとともに、早期発見に努め、初期段階での指導を適切に組織的に取り組みたい。 (7) 進路指導 ・生徒の進路実現に向けた早期の意識付けを図ると共に、関係者間の連携を密に生徒一人一人の希望や目標に沿う進路決定を図りたい。 ・離職率の更なる減少のために、企業研究を十分に行い慎重なマッチングを図りたい。 (8) 業務改善 ・来年度は教職員数の減少が見込まれているため、校務分掌及び部活動の在り方について見直しを図り、無理がないように仕事量の均一化や職場環境の整備を進めていきたい。 2 グラデュエーション・ポリシーについて ・課題解決能力を身に付けさせるべく、専門知識と技術を会得させる工夫を更にしていきたい。 ・協働させる中で「ものづくりの精神」を持つ生徒を育成し、お互いに思いやり、信頼し合う、活気あふれる開かれた学校づくりを、今後も実践していきたい。 3 説明・公表について ・更に分かりやすい公表の仕方を心掛け、アンケート調査の結果と分析等を生かす教育活動を展開していきたい。 4 学校運営全般について ・大会成績や資格・検定等の取得状況、進路状況などをホームページ等で随時、期を逃さず公表していきたい。 ・更に生徒一人ひとりの才能を伸ばすことができる教育環境を教職員が一丸となつてつくってきたい。
--	---